

해요体の命令文の実現様相に関する一考察 —大学生の自然会話をデータとして—

金アラン
上智大学

1. はじめに

日本語と韓国語は、話し手と聞き手の社会的・心理的關係によって丁寧体と非丁寧体といったスピーチレベルを使い分ける言語である。話し手は、発話しようとする内容によって文の種類を決定し、かつ聞き手との關係を考えたがら相応しいスピーチレベルを選択しなければならない。

本稿の考察対象である命令文は、相手にある行為を行なうように命令・指示する文であるため、叙述文や疑問文、勧誘文に比べて聞き手に与える負担度が高くなる。特に、話し手よりも聞き手が上位者である場合、丁寧さを保ちながら聞き手にある行為を行なうように働きかけるという点で一層の配慮が必要となり、この点については韓国語でも日本語でも同じことが言えるだろう。日本語では配慮の一つとして、命令形を避けて依頼形式が用いられることがあげられるが、韓国語における丁寧体の命令文はどのように実現されるのだろうか。

本稿では、1歳から3歳差の韓国人大学生同士の会話をデータとして用い、下位者が上位者に対して使用する丁寧体の命令文に着目し、その実現形式を観察する。そして、発話状況を考慮しつつその命令文を日本語に訳す際、どのようなパターンが見られるかを考察する。

2. 研究目的と研究方法

まず、両言語のスピーチレベルについて概観する。日本語の聞き手待遇法が丁寧体の「です・ます」体と非丁寧体の「である・だ」体の2つのスピーチレベルによって実現されるのに対し、韓国語の聞き手待遇法は3つの丁寧体と3つの非丁寧体、計6つのスピーチレベルによって実現される。両言語のスピーチレベルの対応關係を表1に示す。

表 1. 日韓語のスピーチレベルの対応關係

	丁寧体			非丁寧体		
日本語	です・ます体			である・だ体		
韓国語	합니다体	해요体	하오体	하네体	해体	한다体

両言語のスピーチレベル数の違いは、それぞれの聞き手待遇法の学習に影響

響を与える。韓国語母語話者が初級段階で日本語の聞き手待遇法を学習する時は、합니다体・해요体・하오体を「です・ます」体、하네体・해体・한다体を「である・だ」体と解釈し運用すればよいが、日本語母語話者が韓国語の聞き手待遇法を学習する時は、「です・ます」体が합니다体・해요体・하오体のうちどれに相当するのか、「である・だ」体が하네体・해体・한다体のどれに相当するのかを選択しなければならない¹⁾。特に命令文は形式面だけでなく、運用面でも複雑である。まず、両言語の命令形を確認しよう。表2は日韓語の命令形を待遇度別にまとめたものである。韓国語は李翊燮他(2004)を参考に動詞막다(塞ぐ)の活用形で示す。

表2. 日本語と韓国語の命令形

	丁寧体			非丁寧体		
日本語	です・ます体			である・だ体		
	塞ぎなさい			塞げ		
韓国語	합니다体	해요体	하오体	하네体	해体	한다体
	막으십시오	막아요	막으오	막게	막아	막아라

表2に示したように、日本語も韓国語もスピーチレベルごとに固有の命令形を有している。ただし日本語のナサイ形は、口形に対する丁寧体でありながら、丁寧体で話すべき相手に対してはあまり使用されない。命令文は行動の決定権が話し手にある(蒲谷他 1998)ため、下位者が上位者に命令文を使うのは丁寧さを欠くことになる。そのため、丁寧体で話す相手に対して、命令をしなければならない場合は、ナサイ形の代わりに直接依頼形式のテクダサイ形が用いられることが多い²⁾。

一方、韓国語における丁寧体の命令文について日本で出版された韓国語教材では次のような指摘がなされている。まず、菅野(2007)は‘-시-’が共起していない해요体の命令文について、その丁寧さは上称ではなく等称程度でしかないと述べた。また、内山(2008)は해요体の命令形はそのまま用いると丁寧さが落ちることから、主体待遇法の先語末語尾‘-시-’³⁾をはさんだ하세요の形で覚えるように勧めている。日本で出版されている他の韓国語の初級教材を見てみると、「여기 앉으세요」や「빨리 오세요」のように主体待遇法の先語末語尾‘-시-’を共起させた形で提示しているものがほとんどであった。例えば、『基礎から学ぶ韓国語講座』(2004)や『はばだけ! 韓国語』(2007)、『新チャレンジ韓国語』(2009)、『パラッセ韓国語初級』(2009)、『できる韓国語初級 I』(2010)、『きらきら韓国語』(2010)は、丁寧体の命令形を‘-(으)세요’もしくはII-세요(以下‘-(으)세요’)で示している。以上のことから、命令形‘-어요’による命令文は聞き手に対する丁寧度・待遇度がそれほど高

くないことを指摘した内容になっていることが分かる。では、‘-어요’による命令文はいつ、誰に対して発話されるのだろうか。

本稿では、年齢差が少ない「年下一年上」の会話に現れた丁寧体の命令文を対象とし、その実現形式について考察する。また、発話状況や発話内容を考慮しながら日本語に訳してみることで、日本人韓国語学習者にとって理解しにくいと思われる点を指摘する。データは自然会話を使用する。4名の大学生(男性2名, 女性2名)を基準者とし、1~3歳年上の知人である男性1名、女性1名とそれぞれ1対1で30分間話し合ってもらった。データの合計時間は約240分(30分×8組)である。表3に録音参加者の年齢及び性別を示す。

表 3. 録音参加者の年齢⁴⁾と性別

基準者	相手		基準者	相手	
M1 (男, 27歳)	男(A)	28歳	F1 (女, 22歳)	男(A)	25歳
	女(B)	28歳		女(B)	23歳
M2 (男, 25歳)	男(A)	26歳	F2 (女, 21歳)	男(A)	24歳
	女(B)	26歳		女(B)	22歳

録音は3つのタスクを与えた上で行なった。最初の10分は基準者と相手が一緒に協力してカードでお城を積み上げる「カード積み上げゲーム」、続く10分は一人が紙の板を掌に載せ、もう一人がその上に紙コップを高く積み上げる「紙コップ積み上げゲーム」、最後の10分は自由に話すように指示した。最後のフリートーキングの時、特に話題が思い浮かばない場合は小中高校の学生時代のエピソードを話し合うように指示した。収集した自然会話は概ね宇佐美(1997)に基づいて、書き起こし作業を通して文字化した。なお、本稿では丁寧体の命令文に焦点を当てるため、年下である基準者の発話のみを分析する。

3. 分析及び考察

収録した自然会話を分析した結果、丁寧体の命令文は71例見られた⁵⁾。そのうち69例が해요体による命令文であり、全体の97.2%を占めた。해요体の命令文は、‘-어요’によるものと‘-지요’によるものが現れ得るが、今回は‘-어요’によるもののみが見られた⁶⁾。69例の해요体のうち‘-(으)세요’の命令文は25例で36.2%に留まり、今回のデータでは‘-시-’が共起していない‘-어요’による命令文の使用率(63.8%)が高かった。命令文の発話数を基準者別に示す(「φ」は他の形態との共起がないことを表す)。

表 4. 해요体の命令文の発話数

基準者	相手	-어요			-(으)세요			計
		φ	-어 보다	-어 주다	φ	-어 보다	-어 주다	
M1	A	0	0	0	1	2	0	3
	B	0	0	0	0	0	1	1
M2	A	1	0	1	0	0	0	2
	B	0	1	0	0	1	0	2
F1	A	0	7	2	1	1	0	11
	B	3	1	3	1	2	1	11
F2	A	3	10	4	2	0	0	19
	B	4	2	2	0	1	11	20
計		11	21	12	5	7	13	69
		44 (63.8%)			25 (36.2%)			(100%)

まず、‘-어요’による命令文の形式を観察してみると、‘-어요’のみが付加した発話(例: 만들어요)が 11 例、‘-어 보다’が共起した‘-어 봐요’の形で現れた発話(例: 얘기해 봐요)が 21 例、‘-어 주다’が共起した‘-어 줘요’の形で現れた発話(例: 올려 줘요)が 12 例であった。一方、‘-(으)세요’による命令文の形式は、‘-시-’のみが共起した‘-(으)세요’で現れた発話(例: 다시 하세요)が 5 例、‘-어 보다’に‘-시-’が共起した‘-어 보세요’の形で現れた発話(例: 연습해 보세요)が 7 例、‘-어 주다’に‘-시-’が共起した‘-어 주세요’の形で現れた発話(例: 올려 주세요)が 13 例であった。

基準者別に命令文の発話数を見てみると、M1 と M2 がそれぞれ 4 例、F1 が 22 例、F2 が 39 例であり、男性基準者より女性基準者の方が命令文の発話数が多かった。今回は例文数が少ないため、男女差に関する詳しい考察は今後の課題とする。

表 4 から分かるように、同一の話し手であっても‘-시-’を伴った命令形を使用するかどうかにはばらつきが見られる。また、‘-어 보다’と共起した命令文の使用率が 40.6%(69 例のうち 28 例)、‘-어 주다’と共起した命令文の使用率が 36.2%(69 例のうち 25 例)で、両形式とも決して少なくないことが確認できた

以下では、韓国語の初級教材の多くが丁寧体の命令形として示している‘-(으)세요’以外の命令文に焦点を当て、‘-어요’のみによる命令文、‘-어 보다’が付加した命令文、‘-어 주다’が付加した命令文の順に取り上げ、発話内容及び発話状況を観察・考察する。そして、日本人韓国語学習者にとって理解しにくいと思われる点を指摘する。

まず、‘-시-’が共起していない‘-어요’の命令文から見てみよう。(1)は M2

と年上の男性(M2A)がカード積み上げゲームをしている最中の会話で、M2が上手に積み上げたカードをM2Aに見せて自分の上手さを自慢する場面である。

(1)

番号	話者	発話
306	M2A	무너지겠다.
307	M2	무너지리, 무너지리이다.
308		(カードを積み上げて) 이 봐요.
309		나 얼마나 잘해요.

【発話 308 : 이 봐요】には主体待遇法の‘-시-’が共起していない。年下から年上に対して命令文が使用されているにも関わらず、‘-시-’を伴うことなく発話が可能だった理由は、【発話 308】が相手の注意を引くためのもので、相手に負担度の高い行為を要求する発話ではなかったためだと考える。また、M2が年上のM2Aをからかうように自分の上手さを自慢していることから、両者の親密度が高いことが推測できる。このような理由から主体待遇法の‘-시-’が付加されなかったと考えられる。

さて、この発話を日本語に直訳すると「これ見なさい」や「ほら、見なさい」になる。しかし、日本語では下位者が丁寧体で話すべき上位者に対してナサイ形は使用しにくい。そのため【発話 308】の訳は「これ見て下さい」や「ほら、見て下さい」のように依頼形式に直す必要がある。

次の(2)はF1と年上の女性(F1B)の会話で、共通の集まり(教会の青年部)の恋愛事情について尋ねるF1Bに対して、F1が他の人の恋愛事情を気にせず、彼氏を作るようにと発話する時に‘-어요’の命令文が用いられた。また(3)は(2)の続きであり、紙コップ積み上げゲームをしながらF1BがF1にいい人がいれば紹介してほしいと話している場面である。(3)の【発話 422 : 너 말하지 마】は、話し始めると手元が揺れて積み上げている紙コップが崩れるから気をつけるようにという意味で発話したもので、続くF1の【発話 423 : 긴장하고 있어요】は、紙コップを崩さないように緊張して取り組んでいるという意味の発話である。

(2)

番号	話者	発話
333	F1B	야, 뭐 특종 없냐고?
334	F1	무슨 특종이요?
335	F1B	재밌는 청년, 청년부 특종.

336	F1	언니가 더 많이 알걸요, 나보다.
337	F1B	너보다 내가 아는 게 어딴어?
338	F1	언니가 더 많이 알죠.
339	F1B	내가 어떻게 알아?
340	F1	남자 친구 좀 만들어요.
341	F1B	내가 안 만들고 싶어서 이려고 있냐, 내가 지금?
342	F1	<웃음>
343	F1B	내가 일부러 안 만들고 있는 걸로 보여?
344	F1	그 「人名」 오빠랑 잘 되는 거 아니었어요?

(3)

番号	話者	発話
421	F1B	언니 소개팅 좀 해 줘.
422		너 말하지 마.<웃음>
423	F1	<웃음> 긴장하고 있어요.
424	F1B	### ⁷⁾ .
		[침묵 3 초정도]
425	F1	소개팅 「人名」 언니한테 해 달라고 그래요.
426	F1B	개가 뭐 있냐?

(2)は、他の人の恋愛事情に必要以上に興味を示す F1B に対して、F1 が少し呆れたように【発話 340 : 남자 친구 좀 만들어요】を發話している。また、(3)で F1 は【發話 425 : 소개팅 「人名」 언니한테 해 달라고 그래요】という發話によって、誰かいい人を紹介してくれという F1B の頼みをやわらかく断っている。一文だけを見て命令文のまま直訳すると、前者が「ちょっと彼氏作りなさい」、後者が「紹介、「人名」姉さんにしてくれるよう言いなさい」となるが、この文脈では不自然である。

また、(1)の【發話 308】のようにナサイ形の代わりにテクダサイ形を用いて、(2)を「ちょっと彼氏作って下さい」、(3)を「紹介、「人名」姉さんにしてくれるよう言って下さい」としてもこの發話状況ではまったく意味が通じない訳になってしまう。その理由は、テクダサイ形は依頼形式であり、本来、依頼は行為の受患者が依頼を行なった話者本人にならなければならないからである。(2)の【發話 340】と(3)の【發話 425】によってもたらされる行為の受惠予定者は聞き手(F1B)であるため、ここでは依頼文にはなり得ない。よってテクダサイ形での置き換えも不可能となる。(2),(3)の發話は、命令という形をとりながらも【發話 340】は「ちょっと彼氏を作ったらどうですか」、【發話 425】は「紹介、「人名」姉さんにしてくれるよう頼んだ

らどうですか」という提案・アドバイスに近い発話と解釈できる。

続いて、‘-어 보다’が用いられた命令文の例を見てみよう。(4)は F2 と年上の女性(F2B)の会話で、ある後輩に対する接し方に困っていると話す F2B に対し、F2 が親しげに話しかけるようにと話す際に命令文が使われた例である。

(4)

番号	話者	発話
1051	F2B	근데 그런 얘기를 하면 상처가 될 것 같애. <웃음>
1052	F2	아냐, 개 잘 받아 줘요.
1053		“야, 왜, 왜.” 이렇게 얘기해 봐요.

【発話 1053】も依頼ではなく提案と解釈した方がより自然であろう。直訳した「話してみなさい」の命令文も、「話してみて下さい」の依頼文もこの文脈では不自然である。例文(2),(3)と同様の理由で、ナサイ形は下位者が丁寧体で話す上位者に対しては使えない形態であり、テクダサイ形は行為の受恵者が話し手にならないといけなためである。また、「얘기해 봐요」と「얘기해요」を比較すると‘-어 보다’を使用した方がぶっきらぼうさや押し付けがましさが感じられない。なぜ、ぶっきらぼうさや押し付けがましさが感じられないのか、その理由を探るために、もう少し‘-어 보다’の例を見てみよう。(5)はカード積み上げゲームでの M1 と年上の男性(M1A)の会話で、M1A が M1 に対し、安定感のある土台(1 段目)を作るから、その上に 2 段目を作るようにと話している場面である。それを聞いた M1 が M1A に対して、計画通りにカードを積み上げられるよう一度、練習するようにと‘-어 보다’を使って発話している。

(5)

番号	話者	発話
208	M1A	내가 기초를 견고하게 해 줄게, 별로 견고하진 않겠지 만.
209	M1	이거 실패해도 되는 거죠?
210	M1A	상관없어.
211		게임은 게임으로 끝나야지.
212	M1	형도 한번 밑에서 연습해 보세요.

【発話 212】は主体待遇法の‘-시-’と共起している。‘-시-’を使用し、‘-어 보다’を使用しない「형도 한번 밑에서 연습하세요」と比べると、‘-시-’を

使用し、かつ‘-어 보다’を使用した「형도 한번 밑에서 연습해 보세요」の方がより丁寧聞こえる。‘-어 보다’が共起した命令文は、聞き手に対してある行為を必ず行なうように指示するものではなく、ある行為を試すように指示する時に用いられ、命令というより勧めに近い。そのため、(4)でも述べたようにぶっきらぼうさや押し付けがましさがあまり感じられないと考えられる。命令文においては、‘-시-’の付加だけでなく、‘-어 보다’も発話の丁寧度・待遇度に影響を与えている可能性がある。

(5)は、ある行為を試すように指示する命令文であったため、日本語の「~てみる」としても不自然さを感じない例であったが、次の(6)はこれとは異なる例である。(6)は F1 と年上の女性(F1B)の会話で、カード積み上げゲームを始める前に、2種類あるカードのうち1つを選ぶよう F1 が F1B に指示する時に‘-어 보다’を用いている。

(6)

番号	話者	発話
12	F1	안 쓰던 존댓말 쓰지 마세요.
13		뭐지?
14		이거 카드 둘 중에 골라 보세요.
15		오호, 잘 쌓아지는 거 고르셨어요.
16	F1B	왜?
17		왜 이게 뭔데?

【発話 14: 골라 보세요】を日本語で訳すと「選んでみて下さい」になるが、この場面の発話に相応しいのは「選んで下さい」であろう。【発話 14】のように‘-어 보다’を「~てみる」で訳した場合、不自然な例は他にも見られた。(7)は F1 と年上の男性(F1A)の会話で、F1 がなかなかうまくカードを積み上げられない F1A に対してカードをよこすよう話す時に‘-어 보다’が用いられている。

(7)

番号	話者	発話
308	F1A	응.
309	F1	줘 봐요.
310		미끄러져서 안 되는 거죠?

【発話309: 줘 봐요】は日本語で「よこしてみして下さい」となるが、やや不自然であり、ここでは「~てみる」を訳に反映させず「よこして下さい」

や「下さい」とするのが自然であろう。(5)で‘-어 보다’と共に共起した命令文が、相手にある行為を試すよう勧める時に用いられ、押し付けがましさを感じられないことを確認した。これは‘-어 보다’を用いることで、強制性が低くなり、命令文に丁寧さが加わったものと解釈できる。ある行為を試すよう勧める時以外の(6),(7)のような発話でも‘-어 보다’が用いられるのは、丁寧さを表すための一つの方法と見ることができるのではないだろうか。

‘-어 보다’に関する例をもう少し見てみよう。(8)はカード積み上げゲームをしている F1 と年上の男性(F1A)の会話で、F1 が F1A に対してもっと幅を広げてカードを山の形に立てるように話している場面である。(9)は F2 と年上の男性(F2A)の会話で、(8)と同様に、相手にカードをおさえているように話している場面である。

(8)

番号	話者	発話
165	F1A	여기서 무거워지면 이게 쏠려서…….
166	F1	그러면 가운데부터 한 다음에 이걸 옆에 둘 거예요?
167	F1A	응.
168	F1	그러면 내가 여기다 딱 대고…….
169	F1A	#####.
170	F1	오빠가 이쪽 손으로 이렇게 딱 하고…….
171		제가 이렇게 딱 얹으면 되잖아요.
172		잡고 있어 봐요, 좀 더 벌려서.
173		우리 4 단 쌓을 수 있을까요?

(9)

番号	話者	発話
180	F2	빨리 얹어요, 빨리, 빨리, 빨리, 빨리, 빨리.
181	F2A	어, 어.
182	F2	어, 어, 어허, 어허, 어허, 어허. 애 잘 잡고 있어 봐요.
183		응, 얹어 봐요.

(8)の【発話172: 잡고 있어 봐요】と(9)の【発話182: 애 잘 잡고 있어 봐요】は、‘-어 보다’が共起している点以外に、‘-고 있다’が共起している点でも共通している。‘-고 있다’を用いて、ある行為をしばらく維持することを指示する意味になるが、日本語に直訳すると「おさえていて下さい」となり、やや不自然である。韓国語では聞き手にある行為をしばらく維持するように言う時に‘-고 있다’と‘-어 보다’を共起させて命令文を作るのが可

能であるが、日本語では「~ている」と「~てみる」を共起させて命令文を作るのは不自然なようである。

続いて‘-어 주다’が用いられた例を見てみよう。(10), (11)はいずれもカード積み上げゲームでの発話であり、カードを載せるように言う場面で‘-어 주다’を使った命令文が発話されている。(11)は主体待遇法の‘-시-’が共起した例である。

(10)

番号	話者	発話
100	M2A	근데 원래 정석은 이렇게 쌓는 게 아니지.
101	M2	와아, 나이, 나이 헛먹은 게 아니지.
102		꽤, 아! 나이를 확실히 먹을 만 하시네.
103		나도 여다 올려 줘요.
104	M2A	대신 저 모양, 모양 좀 받추, 받치고…….
105	M2	<웃음> 어렵네요.

(11)

番号	話者	発話
32	F2	핸드폰은 왜, 왜 고친 거예요?
33	F2B	통화가 자꾸 통화 실패가 떠 가지고 갔거든.
34	F2	예, 뭐래요?
35	F2B	다음에, 내일 다시 오래.
36	F2	올려 주세요.
37		왜요?
38	F2B	어제 사람, 오늘 사람이 너무 많아 가지구.

(10)の【発話 103 : 나도 여다 올려 줘요】は「(私の方もここに)載せて下さい」、(11)の【発話 36 : 올려 주세요】も「載せて下さい」となり、主体待遇法の‘-시-’の共起の有無が日本語訳に反映できない。‘-시-’の意味を明確に表すため「お載せになって下さい」のように訳すこともできるが、文語的で硬い言い方になってしまい、ここでの会話参与者である大学生同士の発話には相応しくない。両言語の主体待遇法の形式と待遇度の対応関係については、今後、具体的に考察する必要があるが、韓国語の‘-시-’と日本語の「お+連用形+になる」の待遇度が完全に一致しているわけではないことが(10),(11)から窺える。また、今回のデータでは‘-어 주다’が共起していない 올려요や올리세요は見られなかったが、올려요, 올리세요, 올려 줘요, 올려 주세요を日本語に訳すといずれも「載せて下さい」になる。その対応関係は

4対1になり、日本人韓国語学習者にとってそれらを使い分けることは容易ではないだろう。

これまでの考察をまとめたものが表5である。‘-어 봐요’と‘-어 보세요’、また‘-어 줘요’と‘-어 주세요’は、‘-시-’の共起の有無によって発話の待遇度が異なるが、日本語に訳すとその違いは反映されない。

表5. 丁寧体の命令文に用いられた形態とその機能及び日本語訳

形態	機能	日本語訳
‘-어요’	相手にとって負担度の低い命令・指示	~てください
	提案	~たらどうですか
‘-어 봐요’, ‘-어 보세요’	試すことの提案	~てみたらどうですか ~てみてください
	強制性を低めた命令・指示	~てください
‘-어 줘요’, ‘-어 주세요’	依頼	~てください

日本語における丁寧体の命令文ではナサイ形の代わりにテクダサイ形の直接依頼形式を用いることで、相手に対する配慮を行なっている。それに対し、韓国語における丁寧体の命令文は‘-어요’, ‘-어 봐요’, ‘-어 줘요’, ‘-(으)세요’, ‘-어 보세요’, ‘-어 주세요’のように多様な形式で現れ、誰にどの形式を使えばよいのか判断が難しい。このような形式の複雑さと丁寧さの度合い、そしてそれが母語である日本語とどのような対応関係にあるかを把握することが韓国語を学習する日本人にとっての難しさと言える。

4. おわりに

本稿では、大学生の自然会話をデータとし、韓国語における丁寧体の命令文の現れ方について観察した。今回抽出した丁寧体の命令文 71 例のうち、69例(97.2%)が해요体によるものであった。69例をさらに分析してみると、‘-시-’が共起していない‘-어요’の命令文が 44 例、‘-시-’が共起した‘-(으)세요’の命令文が 25 例であった。日本で出版されている韓国語の初級教材の多くが、丁寧体の命令形を‘-(으)세요’で提示しているが、今回使用した大学生の自然会話で‘-(으)세요’を用いた命令文の使用率は 36.2%に留まっており、親密度や発話状況、発話内容によっては丁寧体で話す相手であっても主体待遇法の‘-시-’を用いない場合も多いことが明らかになった。丁寧体の命令形を‘-(으)세요’で覚えた初級学習者は、命令文を発話する時に一貫して‘-(으)세요’を使う可能性が高く、韓国語母語話者が心理的距離を縮めるために‘-어요’形を用いた場合、その意図を見逃し、相手の発話に不快

感を覚える可能性があると考えられる。

続いて、考察の結果をまとめる。まず、‘-시-’が共起していない‘-어요’の命令文は、「이 봐요」のように相手に与える負担度が低い命令文で用いられた他、相手に何かを提案・アドバイスする時の発話(例:「人名」언니한테 해 달라고 그래요)でも用いられた。また‘-어 보다’が共起した命令文(例: 연습해 보세요)は命令・指示というより試みの勧めに近く、‘-어 보다’が共起していない命令文(例: 연습하세요)に比べて丁寧さが感じられる。しかし、試みの勧めでない単なる命令・指示を表す文でも‘-어 보다’が使用されており(例: 봐 봐요)、その場合は日本語の「~てみる」を用いて訳すと不自然な文になることが分かった。さらに、韓国語ではある行為をしばらく維持するよう指示する時に‘-고 있다’と‘-어 보다’を共起した命令文(例: 잡고 있어 봐요)が用いられていたが、日本語では「~ている」と「~てみる」を共起して命令文を作るのはやや不自然(例: おさえていてみて下さい)で、その点でも日韓語の不一致が見られた。最後に、‘-어 주다’が共起した命令文は、‘-어 주세요’と‘-어 줘요’がいずれも日本語で「~て下さい」になり、韓国語の主体待遇法の‘-시-’と日本語の主体待遇法の「お+連用形+になる」の待遇度が完全に一致していないことを確認した。

今回はデータが少なかったため、本稿の結果を一般化するのは難しく、データを増やした上でさらに詳しい分析を行なう必要がある。命令文の使用率に男女差があるかについて、また‘-어 보다’による丁寧度の調節についてもより詳しい考察を行ないたいと考える。

《謝辞》

本稿を作成するにあたり、神田外語大学の平香織先生に大変貴重なご意見を頂きました。ここに記して感謝申し上げます。

《註》

- 1) 국립국어원(2005)によると하오体と하네体は年配の人同士の会話でたまに使用される程度で、日常的な会話ではほとんど現れないスピーチレベルとされる。本稿は大学生の自然会話がデータであり、かつ丁寧体が対象であるため하오体と하네体は考察の対象とはならない。
- 2) 益岡・田窪(1992)は、テクダサイ形を「直接依頼形式」、テ形を「明示的な命令の形式」としている。
- 3) 原文では「尊敬の補助語幹Ⅱ-시-」となっている。
- 4) 年齢は録音当時の情報に基づく。M1のグループは2011年8月、F1のグループは2011年7月、M2のグループは2012年4月、F2のグループは2011年9月に録音を行なった。
- 5) 해오体以外の命令文は、합니다体によるものが1例、‘-라고요’によるものが1例見られ

た。합니다体の命令文は、M2 が年上の男性(M2A)に録音・ゲームをリード・管理する「基準者」として、相手にカード積み上げゲームを終わらせるように「형님, 마무리 하십쇼」と話す時に用いられていた。‘-라고요’による命令文は F1 と年上の男性(F1A)の会話で見られた。紙コップ積み上げゲーム終了後、F1 が F1A に小中高の学生時代のエピソードについて話すよう言ったが、関係のないことを話し続ける F1A に対し、F1 が「학창시절 애길해 보라고요」と発話した。‘-라고(구)’は 국립국어원(2005)によると「일찍 들어가 쉬시라고요. 그러다가 쓰러지시겠어요.」のように話し手が自分が言った提案、命令、主張を繰り返したり、強調したりする時に用いられる形態とされる。

- 6) ‘-어요’と‘-지요’はともに해요体であるが、命令文に用いられる時には、‘-지요’が‘-어요’に比べて命令や勧誘の度合いがかなり弱く感じられ、相手が受け入れるのに負担が少ないとされる(고영근 1974, 국립국어원 2005)。今回は年齢に近い年上との会話をデータとして使用したため、‘-지요’による命令文は現れなかった。以下に 국립국어원(2005)による例文を示す(下線は筆者による)。

例) a. 선생님, 날씨가 추운데 안으로 들어가세요.

b. 선생님, 날씨가 추운데 안으로 들어가시지요. 국립국어원(2005:897)

- 7) 「#」は聞き取りが不可能だったことを意味する。「#」の数は日本語では推測される拍数に応じて付けるが、韓国語を研究対象とした本稿では音節数に応じて「#」を付ける。

《参考文献》

- 고영근(1974) 「現代國語의 終結語尾에 對한 構造的 研究」, 『語學研究』 10-1, p.118-p.157, 서울대학교 語學研究所
- 국립국어원(2005) 『외국인을 위한 한국어 문법 2-용법 편』 커뮤니케이션북스
- 李翊燮・李相億・蔡琬 著, 梅田博之 監修, 前田真彦 訳(2004) 『韓国語概説』大修館書店
- 宇佐美まゆみ(2007) 「改訂版：基本的な文字化の原則(Basic Transcription System for Japanese:BTSJ) 2007年3月31日改訂版」『談話研究と日本語教育の有機的統合のための基礎的研究とマルチメディア教材の作成』平成15年~平成18年度科学研究費補助金 基盤研究 B(2)(研究代表者 宇佐美まゆみ)研究成果報告書
- 内山政春(2008) 『しくみで学ぶ初級朝鮮語』白水社
- 蒲谷宏・川口義一・坂本恵(1998) 『敬語表現』大修館書店
- 菅野裕臣著, 浜之上幸・権容環改訂(2007) 『朝鮮語の入門』白水社
- 木内明(2004) 『基礎から学ぶ韓国語講座初級』国書刊行会
- 金京子・喜多恵美子(2009) 『パランセ韓国語初級』朝日出版社
- 金順玉・阪堂千津子(2009) 『新チャレンジ韓国語』白水社
- 野間秀樹・金珍娥・中島仁・須賀井義教(2010) 『きらきら韓国語』同学社
- 野間秀樹・村田寛・金珍娥(2007) 『はばたけ! 韓国語』朝日出版社
- 益岡隆志・田窪行則(1992) 『基礎日本語文法(改訂版)』くろしお出版

李志暎(2010)『できる韓国語初級Ⅰ』DEKIRU 出版

해요체 명령문의 실현 양상에 관한 일고찰 -대학생들의 자연회화를 데이터로 하여-

김아란
조치대학

본고에서는 대학생들의 자연회화를 데이터로 하여 한국어의 정중형 명령문의 실현 양상을 살펴보았다. 그 결과, 이번 데이터에서는 주체대우법 선어말어미 ‘-시-’가 공기한 ‘-(으)세요’의 명령문(36.2%)보다 ‘-시-’가 공기하지 않은 ‘-어요’의 명령문(63.8%)의 사용빈도가 더 높았다. 또한 ‘-어 보다’(40.6%)나 ‘-어 주다’(36.2%)와 공기한 예문도 적지 않게 발견되었다. 어떠한 점에서 일본어와 차이점을 보이는지 살펴본 결과, 청자에게 무엇인가를 제안하거나 충고할 때 나타난 ‘-어요’의 명령문(예: 남자친구 만들어요)은 그 발화에 의해 실현될 행위의 수혜자가 화자가 아닌 청자이기 때문에, 일본어로 번역할 때 의뢰형식인 “~てください”를 사용하면 부자연스러웠다. 또한 한국어에서는 ‘-어 보다’와 공기한 명령문(예: 연습해 보세요)이 그렇지 않은 명령문(예: 연습하세요)에 비해 정중도가 다소 높은 것을 알 수 있었는데, 이는 청자에게 어떠한 행위를 시도해 보도록 권유할 때 사용되는 ‘-어 보다’의 명령문이 청자에게 부하하는 강요도가 그다지 높지 않기 때문이라고 생각된다. 그러나 “시도의 권유”의 의미가 없는 경우에도 ‘-어 보다’가 공기된 예가 발견되었다. 이 경우에는 화자가 해요체의 명령문을 조금이나마 정중하게 표현하기 위한 목적으로 ‘-어 보다’를 사용한 것으로 보여진다(예: 쥐 보세요). 이러한 발화를 일본어로 번역할 때 ‘-어 보다’를 “~てみる”로 직역하면 부자연스러웠다. 또 한국어에서는 청자에게 어떠한 행동을 잠시 유지하도록 지시할 때 ‘-고 있다’와 ‘-어 보다’가 결합한 ‘-고 있어 봐요’가 사용되었는데(예: 잡고 있어 봐요), 일본어에서는 “~ている”와 “~てみる”가 결합한 “~ていてみて下さい”의 표현을 사용한 명령문은 다소 부자연스러웠다. 마지막으로 ‘-어 주다’와 공기한 명령문을 살펴본 결과, ‘-시-’가 결합한 ‘-어 주세요’와 ‘-시-’가 결합하지 않은 ‘-어 줘요’를 일본어로 번역하면 양쪽 모두 “~てください”가 되어 ‘-시-’의 결합 여부가 불분명해지는 것이 확인되었다.